

6月末に完成した児童養護施設に入所する子どもたち。左から7人目が熊本YMCA前総主事の堤弘雄さん＝ミャンマー・カチン州モガウン（写真はいずれも堤さん提供）



## エイズで親亡くし 経済的に困窮

熊本YMCAの支援で6月末、ミャンマー北部のカチン州の都市モガウンに、エイズウイルス（HIV）感染で親を亡くした子どもたちのための児童養護施設が完成した。開所式に出席した熊本YMCAの堤弘雄・前総主事（58）に、設立の経緯や課題などを聞いた。（中村美弥子）



ミャンマーの旧首都ヤンゴンからプロペラ機でカチン州の州都ミッチーナへ。約3時間で到着した後、さらに車で約2時間ほど離れたモガウン。70ほどの村で構成され、

熊本YMCA  
市民から募金

## 「児童養護施設」が完成



熊本YMCAの資金援助で完成した児童養護施設

人口は約20万人。ほとんどが少数民族のカチン族だ。この地域には、エイズで親を亡くした子どもが多数いるという。

「近くの鉱山で働く労働者に麻薬がまん延しており、注射の回し打ちなどでHIV感染が増えているのです」と堤さん。しかし現地には、親を亡くした子どもを保護したり、相談を受けたりする公的機関はなかった。社会保障制度や福祉の概念がないのだという。

子どもたちを何とか救えないだろうか。現地のモガウンYMCAから相談を受けた熊本YMCAは2010年から、子どもたちの学費援助などの支援に取り組んでいる。児童養護施設の整備もその一環で、施設費50万円と年間の運営費約100万円を寄付。資金は市民からの募金で集めたという。

施設は木造平屋の住居を改修。広い集会所と学習室、男女別の寝室などがある。電気はあるがガスや水道はなく、土間で火をおこして食事を作り、井戸水を使う。モガウンYMCAが運営し、県内の児童養護施設などで1年間研修したヌー・タン・サンさん（24）が施設長に就いた。

入所しているのは9歳から16歳までの11人。うち2人は母子感染しており、投薬や病院への通院が必要だ。「わらび屋根の家で祖母と暮らしていた11歳の少女は、雨漏りの心配もなく、電気があり、食事も十分にある仲間との生活をとても喜んでいて。一方で、孫を送り出した祖母の寂しさも思いました」と堤さん。

まだ50人ほど、祖父母らと暮らす子どもたちがいる。今後は優先度の高い子どもを施設に受け入れ、学費援助も続けていく方針だ。

「施設運営の自立が課題」と堤さん。資金援助は3年間と期限を設けた。仏教国のミャンマーでは珍しく、カチン族のほとんどはキリスト教徒で、教会も多い。「地域住民と教会が中心となって、子どもたちの命を守ってほしい。ミャンマーの福祉施設のモデルケースとなるよう応援していきたい」

# ミャンマーの子ら 熊本が支援